

公益財団法人 大阪科学振興協会

平成 28 年度事業報告及び決算の承認について

<大阪市における博物館経営の独法化方針について>

当協会は、大阪市から 5 年間（平成 27～31 年度）の指定管理者指定を受けて大阪市立科学館の管理運営を行っているところであるが、大阪市においては、平成 28 年 12 月に博物館のめざすべき姿について取りまとめた「大阪市ミュージアムビジョン」を策定し、ビジョン達成にふさわしい博物館の経営形態として、平成 31 年度から地方独立行政法人による経営とすることを 28 年度末に決定した。これを受け、当協会は新法人の設立とともに解散するものとされていることから、当協会が指定管理者として大阪市立科学館の事業を請け負う期間は、残すところ平成 29・30 年度の 2 年間になる。

<平成 28 年度事業報告について>

平成 28 年度の当協会の事業については、入場者数ではプラネタリウム、展示場ともに堅調に増加し、総入場者は 732,070 人で、史上第 4 位、3 年連続の増加となった。また、観覧料収入は約 1 億 9,320 万円で、同じく 3 年連続の増加となった。（詳細は表 1、表 2 参照）

この良好な実績は、学芸員による調査研究活動をはじめ、「スペシャルナイト」の開催、市内小学校への「出張サイエンスショー」など精力的な各種事業の実施とともに、最近増加している海外からの来館者にも展示物をよりよく見ていただくため、学芸員が自ら展示物への英語解説を追加するなど、「日々の職員等の基礎活動」が実を結びつつある証だと言える。

また、隣接する国立国際美術館が開催した「大兵馬俑展」との観覧料相互割引や、大阪科学技術センターとのコラボイベントを行うなど、近隣の他団体と幅広い地域連携を実施した。

さらに国際連携を進めるため、ドイツ連邦共和国最大の科学博物館であるミュンヘン市のドイツ博物館に齋藤館長以下 3 名の訪問団を派遣し、同館資料を活用した企画展の実施に向けての基本合意書を交わし、今後の科学館活動を国際的かつ中長期的視点で展開していく端緒ともなった。

館の管理運営を超えるこうした独自の取り組みは、「大阪市ミュージアムビジョン」で示された独法化で実現すべきアクションプランの先取りともいえるものであり、独法化による将来の科学館の姿につながる基礎ができつつあると考えている。

平成 28 年度の事業活動の結果として、経営計画で掲げた 4 つの目標については、「入館者数」が目標 70 万人に対し 73 万 2 千人になり、他の 3 目標「市内小学校利用件数」「自主事業収入等の割合」「連携型事案件数」も表 3 に示すとおり、いずれも目標を上回った。

表 1 平成 28 年度入場者数

	H28 実績	H27 実績	対前年比
展示場	375,376	368,147	102.0
プラネタリウム	356,694	353,786	100.8
合計	732,070	721,933	101.4

表 2 平成 28 年度観覧料収入（千円）

	H28 実績	H27 実績	対前年比
展示場	54,471	52,569	103.6
プラネタリウム	138,735	139,310	99.6
合計	193,206	191,879	100.7

表 3 経営計画の目標と実績（平成 28 年度）

	大阪市内小学校の科学館 利用件数	総収入に占める自主事業 収入等の割合	（公財）大阪市博物館協 会等との連携型事業件数
目標	250 件	55.2%	4 件
実績	271 件	56.4%	5 件

平成28年度 事業報告書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

プラネタリウム番組は、当館学芸員による生解説プログラムの企画、演出、制作に加え、全天周映像を組み込んだオリジナル番組を2本自主制作し、他館への配給を開始した。平成27年度に制作した番組「天の川をさぐる」は、国内同種施設5館へ配給が実現し、当館の活動が広く認められた。

さらに、サイエンスショー及びエキストラ実験ショーにおいては、学芸員が企画・実演するだけでなく、学芸員指導による市民参加が定着し、海外も含め館内外での実施が行われるなどレベルも向上し、好評を得た。

また、アウトリーチ事業では新モバイルプラネタリウムのメガスタークラスと、3D宇宙体験をメニューとして強化、あわせて9件1,500名の参加を得た。また、堺市でのイベントで1,500名対象にサイエンスショーを展開するなど、館外での成果を上げるとともに、幅広く科学館のPRにも貢献した。

事業の詳細については、以下のとおりである。

I. 公益目的事業

1. 展示場事業

(1) 常設展示の公開・管理

「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、211点の展示品を主に1～4階の常設展示場で公開した。展示物については、入場者増加に伴うハンズオン展示の故障増大という科学館特有の問題と経年劣化、陳腐化に対応するため、日常のメンテナンスに努めるとともに、資料の追加や交換を適宜行った。また、小学校団体の展示利用を支援するために、学習プログラムを引率者へ配布した。

(2) 企画展示

本年は以下の4つの企画展を実施した。

- ①「大阪と花火の科学」：花火にまつわる、燃焼、炎色反応などの化学にまつわる解説と、天神祭りの奉納花火など大阪の花火の歴史を実物資料で紹介した。
- ②「見えないものを見る挑戦！—ミュオグラフィ：21世紀の透視図法—」：ミュオンと呼ばれる宇宙線を利用して、火山など巨大な物体の内部を調べる技術について、ミュオグラフィ装置や宇宙線検出装置などの実物資料を中心に紹介した。
- ③「化学と宮沢賢治」：詩人、童話作家として有名な宮沢賢治生誕の、化学の専門家としての宮沢賢治の一面をクローズアップし、作品の中で登場する化学用語の解説や、実際の物質や現象を資料とともに展示した。
- ④「石は地球のワンダー」：北川鉱物コレクション、金澤化石コレクションの中から、様々な形の結晶を持つ鉱物や、アンモナイトなどの化石を展示し、地球の営みや生物の進化を紹介した。自然史博物館との共催による実施。

(3) 展示解説ボランティアによる展示案内

展示場にて、案内や展示品解説、実験演示等を行った。また、登録者が一斉に参加してガイドを行う「サイエンスガイドの日」や「電気記念日協賛事業によるスペシャルイベント」を実施した。
登録者数：58名、活動延人数：1,621人、指導員：4名

(4) サイエンスショーの実施

学芸員を中心に1日4回を原則に1回30分の実験ショーを3ヶ月毎にテーマを変えて行った。実施回数：1,062回、見学者数：71,896人

(5) エキストラ実験ショーの実施

サイエンスショーとは異なる実験ショーをボランティアが演じた。実施回数：193回、見学者数：13,188人

2. プラネタリウム事業

1日2番組合計7回のプラネタリウム一般投影を基本に行った。この2番組のうちの一つは3ヶ月毎にテーマが変わる学芸員等による生解説で行うもの（一般投影A）、もう一つは全天周映像を組み込んだ番組である（一般投影B）。前者5番組のうちの一つ、「星空オールナイト」は、投影当日の一晚中の星空解説を通じて宇宙の様々な謎に迫る、当館初の新しい試みの内容で、約5万3千人の観覧者を記録した。また、後者6番組のうちの一つ、「星空へのパスポート」は全天周映像システムが映し出す美しい映像で、座席占有率が約75%のヒットとなった。また「星の誕生」、「ボイジャー太陽系脱出!」、「見上げよう!未来の星空」の3番組は学芸員が自主制作した新番組で、他館への配給を開始している。

(1) 一般投影A

「今夜の星空」の解説に加え、学芸員等による生解説を基本スタイルとして投影を行った。投影回数：1,150回 見学者数：178,627人

(2) 一般投影B

全天周デジタル映像作品をテーマとして、学芸スタッフ等による生解説との2部構成で投影を行った。投影回数：672回 見学者数：115,069人

(3) 学習投影

学校団体専用の学習用プログラム。見学校：288校、投影回数：103回、見学者数：21,531人

(4) 幼児投影

学芸員による生解説で実施している。テーマは「ほしのおはなし」。それぞれの季節に見える星空や、星座や天体の話題を紹介した。投影回数：50回、見学者数：14,241人

(5) ファミリータイム

幼児から小学校低学年までの子供連れの家族向けの内容で、好評につき今年度は学休期間の投影も加え、回数を増やした。投影回数：153回、見学者数：26,683人

(6) スペシャルナイト

天文学の普及と市民の生涯学習に資することを目的に、学芸員の専門・得意分野を活かした特別投影を実施した。実施回数：3回、見学者数：795人

3. 資料の収集及び保管、調査研究事業

(1) 資料の収集・保管

電話機の寄贈を受ける等、寄贈・寄託資料29点、購入・製作資料9点を収集した。また55点の資料を借用した。

(2) 調査研究

○中之島科学研究所

学芸員と外部研究員6名が情報交換を行い、研究活動を推進した。実績は下のとおり。

- ・学術誌等での論文掲載、学会等での口頭発表合わせて20件
- ・第7回「全国理工系学芸員展示研究大会」を開催し、他館の学芸員と意見交換を行った。
- ・毎月1回のコロキウムにおいて、研究員が市民公開の場で研究報告を行った。

4. 教育普及啓発事業

(1) 科学教室、講演会、教員研修など

日本物理教育学会近畿支部などとの共催による「青少年のための科学の祭典第 26 回大阪大会サイエンスフェスタ」が 2 日間で延べ 22,000 人を集めるなど、40 件（内他組織の協力等を得たもの 26 件）の各種事業を実施した。参加者は自由参加を除いて 4,803 人（組）であった。

(2) 科学デモンストレーター研修

実験ショーの人材養成を目的に、1 年間の研修を行った。研修生：2 名 修了者：2 名

(3) 天体観望会

市民対象の天体観望会を、ボランティアの天体観望会指導員の協力のもとに実施した。

実施回数：8 回 参加者数：629 人

(4) ジュニア科学クラブ

小学校 5, 6 年生が毎月 1 回科学館に集合し、プラネタリウム見学や実験教室等での活動に取り組んだ。会員数：140 人

(5) アウトリーチ事業

モバイルプラネタリウム、出張サイエンスショー、特別講演会など合計 30 件（自由参加を除く参加者数 4, 631 人）を実施した。

(6) モバイルプラネタリウム解説研修講座

モバイルプラネタリウムの投影解説を行う人材養成を目的に、1 年間の研修を行った。

受講生：4 名 修了者 4 名。

5. 建物・設備等に関する管理運営事業

科学館の土地、建物、設備等の維持・管理及び運営を適正に行った。

当協会の専門性の高い技術職員が、法定点検など各種設備点検を確実にを行うとともに、設備故障を未然に防ぐ観点から、日々、工夫を凝らして巡回を行うなど、建物や設備の安全確保のための活動を展開した。

6. 情報発信及び広報・宣伝事業

科学館ならびに科学と科学技術の普及啓発のため、ホームページの充実やツイッターや YOUTUBE などの SNS、メディアを活用した多彩な手法による情報発信を行うことで広報・宣伝に努めた。

II. 収益事業

売店事業

科学館への来館者に、当協会の学芸員が作成したミニブックをはじめ、こよみハンドブックなどの科学書籍、科学雑誌、オリジナルグッズ等の商品の販売を行った。また、科学館西側屋外テント内に、自動販売機を設置し、清涼飲料水等の販売を行った。